鳴門教育大学研究紀要
第25巻　2010

臨床心理を学ぶ大学院生における保育実習の意義について

中　津　郁　子*，両　木　理　恵**

（キーワード：保育実習，臨床的視点，幼児理解，感受性）

Ⅰ．問題と目的

臨床心理士は，心に悩みを持つ人たちに接し，心理療法によってその回復力を助ける。心理療法には様々な方法があるが，子どもたちに対しては主としてプレイセラピーがなされている。プレイセラピーにおいて，セラピストには，子どもが象徴的に表現するものを直感的に感じとる能力や感受性，共感性，想像力等の臨床的な力が求められる。

ロンドンのタビストック・クリニックでは，1948年から児童精神療法家の感受性などを育む基礎訓練として，家庭訪問による乳幼児観察が行われた。そして，1960年には精神分析家になるための必須の研修となり，現在も盛んに行われている。近年では，精神分析の訓練の枠を超え，精神保健に従事する臨床家にも普及しつつあり，日本でも乳幼児観察の経験者が増え，その重要性が認識されつつある。

タビストック方式の乳幼児観察は，観察者が決まった時間に家庭訪問をし，家庭での母子の生活を観察するというものである（衣笠・鈴木・渡辺，1994）。山口（1999）は，母子関係のやりとりを観察するなかで，観察者自身の感情を刺激され，揺れ動かされるが，母子関係には手を出さず，その情動の意味を考えていくこと，また，転移・逆転移への理解や，非言語でのコミュニケーションへの調律などが，治療者の訓練としての一番の力点だとしている。これらは，治療者の基礎訓練として重要なものである（山口，1999）。さらに山口（1999）は観察者の五感イメージが活性化され，身体表現による交流が観察者におこるという。渡辺（1994）は，間主観（inter-subjective）な交流を通して伝わってくる，乳幼児の対象関係の世界を観察するという。

神田橋（2006）は，精神療法の技術で重要なのは「読み取り」の技術であり，「感じる」能力であると言い，日常生活の中での五感イメージ・トレーニングを推奨している。そして，五感イメージ・トレーニングと同水準の基礎トレーニングとして，赤ちゃんや犬などのコトバの通じない，しかしノン・バーバルなコミュニケーションは伝わる相手に，話しかけることを推奨している。

このような先行研究において，乳幼児観察が心理療法家育成の訓練として有用であることが明らかにされている。中津・二宮・山下（2009）は，乳幼児観察のフィールドを保育園に置き，特定の乳児を対象とし，その乳児と担当の保育士との関わりだけではなく，他児との関わり，観察者である自分との関わりといった，乳児を取り巻く環境や対人関係全てを観察した研究を行っている。観察者が対象児の成長に寄り添い，逆転移による観察者自身の心も見つめ，自己理解をしていく様子や初心者カウンセラーの資質を育む様子が記載されている。保育園での乳幼児観察は，まだ新しい研究法であるが，関与しながらの観察であり，心理臨床家育成の大きな訓練であると考える。

一方で，昨今では，保育実習が人間力を高める効果を持つとして，医療職を目指す学生などを対象に行われているところもある（高塚，2007・徳島大学，2007）。

友定（2002）は，保育の場において，保育者は日常的に特に意識することなく幼児を理解するという作業を行っており，１つの出来事，遊びなどをとっても，それが「当の子どもにとってどういう意味をもっているのかを考え，それによって，言葉や行動を変えて対処したり，制限したりしなかったり，臨機応変に対応するという。そして，行動を理解するということは，その行動の本人にとっての意味を理解することであり，自分とは違う他者を理解するときにも有効であり，自己の内部を探っていくことによって，幼児の世界に近づくことができ，他

*鳴門教育大学　臨床心理士養成コース
**小田井メンタルクリニック

者の内的世界の理解は，自己の内的世界の理解へと進む」と述べている。

以上のことから，保育実習においても，タビストック方式の乳幼児観察によって起こる感情や情動体験が多少とも得られると考えられる。また，幼児は自分が理解されたと感じて，初めて他者の思いを受け入れることができ，幼児の側に受容されたという感覚がなければ，保育は進んでいかないことから(友定，2002)，保育実習は，臨床心理士を目指す大学院生にとって，共感的理解や受容的態度，想像力を育む訓練となるのではないかと考える。本研究では，臨床心理士を目指す保育実習を経験した大学院生に個別面接を行い，一人一人がどのように感じ，考えたかを明らかにすることを目的とする。また，面接調査を分析することによって，臨床心理士を目指す大学院生における保育実習の意義や効果について考察することを目的とする。

Ⅱ．方法

1．実習方法と対象者

A 法人保育園の協力を得て，2007年度に希望する大学院生17名（臨床心理士を目指す大学院生）が約５ヶ月間にわたる週１回，約３時間，幼児保育実習（２歳児～５歳児クラス）や乳児保育実習（夏季休業中の連続した３日間）を行った。本年度は，観察対象児を１人決め，対象児を中心に，観察及び関わりをした。

実習生は事前に大学での説明会や保育園にての説明，注意事項などを聞き，保育園での保育や乳幼児の生活に支障がないよう指導を受けた。実習中，約半数の実習生は定期的な小集団でのグループディスカッションを行い，残りの実習生は２～３回行った。小集団でのグループディスカッションは指導者を交えて実践を振り返り，実習生の経験を深めるスーパーヴィジョン（以下 SV と記載）の役割を果たした。対象者の年代は，20代から40代である。

2．面接調査の手続きと項目・調査期間

保育実習参加者を対象に，面接調査を紙面にて依頼し，16名（女性11名，男性５名）から承諾が得られた。面接は，大学面接室にて15分～45分程度行った。

質問項目は，年代などのフェースシート及び，「保育実習の中で一番印象に残っていること」「保育実習で良かったこと，学んだこと」「保育実習で苦労したこと，悩んだこと」「保育実習で気づいた自分の癖や長所・短所など」「対象児との関係性から感じたこと」「ケースを担当している中で役に立っていること」「あなたにとっての保育実習の意味」「臨床心理士を目指す大学院生にとっての保育実習の意味」「改善点」についてである。調査期間は，2008年10月である。

Ⅲ．結果

本論文では，個人についての特徴的なものを取り出し簡潔に記載した。

1．A さん

「保育実習の中で一番印象に残っていること」は，他の子と遊んでいたら，対象児が癇癪を起こしたので，傍に戻り，鉄棒にもたれて二人で空を見ていた。僕が「あ，月だ」と言ったら，「あ，ほんまや」となって落ち着いたことで，心が通じ合ったという感じがした。一緒に寄り添って同じ方向を見ていると，問題は変わらないが，何かが変わっていくのかな，それが臨床心理なのかなと思った。困っている問題は変わらなくても，何かできることがあるのかなと感じた。

「保育実習で良かったこと，学んだこと」は，自分自身がリフレッシュできたというか，楽しみだったこともある。そして，プレイセラピーの前段階として，遊びの勉強というか，幼児の遊びを見て，どういうふうに遊ぶかなどを見ることができたこと，情動調律の練習ができたこと。これは，「ケースを担当しているなかで役に立っていること」でも同じである。

「保育実習で気付いた自分の癖や長所・短所など」は，寂しそうにしている子に注意が向き，声を掛けるところがあった。また子どもに対して，あまり強気に出られないところもあった。長所は子どもと，結構同じ目線で，一緒に楽しめたところ。癖は困ったことに目が行き，あまりいいところには目が向いて行かないこと。

「対象児との関係性から感じたこと」は，対象児が自分だけを見ていないと，怒るのが，自分の小さい時にも重なる，通じるものがあると感じた。

「あなたにとっての保育実習の意味」は，保育実習をしている時，皆すごくかわいくて，人を信頼する，僕自身が人を信頼できる根拠になるという体験で，大きな意味があった。
「臨床心理士を目指す大学院生にとっての保育実習の意味」は，健常な児童と，発達の問題を抱えているという子との，自分なりのスクリーニングのようなものができた。いきなり大人と情動調律するのは，お互い警戒心があり難しいと思うが，子どもとなら警戒心が少ないので，こちらも警戒を解いて，心を通わせることができるかなと思う。プレイセラピーをするなら，やっておくべきかなと思う。
「改善点」は，無力感を感じる時期もあり，その時ちょうどSVがあって，どう対応すればいいのかわかり，そこからもっと楽しくなった。遊ぶことが楽しみなのと，自分が対応して対象児がこう変わってという楽しみもできたからSVが定期的にあるとよいと思う。

2．Bさん

「保育実習の中で一番印象に残っていること」は，後半，対象児がぐずり出して，上手く関われないようになってしまった。そんな状況がずっと続いて，もう実習が終わるって時に，子どもが落ち着いたのか，ちゃんとお別れを言えたのが，嬉しくてすごく印象的だった。最後は「抱っこして」と言われ，そこまで私を受けいれてくれたと嬉しかった。
「保育実習で良かったこと，学んだこと」,「あなたにとっての保育実習の意味」は，各年齢で何ができるか，どう発達していくかを見ることが出来たのが,すごく勉強になったと思う。また子どものテンションを上げ過ぎず，上手く関わるのをどうすればいいか学んだ。
「保育実習で苦労したこと，悩んだこと」は，対象児自身がすごく揺れていて，それにどう接していいのかとても悩んだ。関わると私にアグレッションを向けてくる。でも近付かないと，観察ができないので，機嫌を損ねないようにしつつ，どう接するかというのが，すごく難しかった。集団SVで話し合った。
「保育実習で気付いた自分の癖や長所・短所など」は，泣かれるのに弱いということを知った。泣かれてしまうと，泣き止ませないといけないと，冷静さを失うことに気付いた。また，子どもの機嫌を窺い過ぎるところがあるなと思った。長所は，純粋に子どもが好きだと再確認した。
「臨床心理士を目指す大学院生にとっての保育実習の意味」は，通常の子どもの発達やどれくらい遊べるのか，知らない人に会いどのように距離を縮めていくかなど，知っておくことは大きいと思う。それによって，この子は何かが強いのでは，例えば，人見知りが強過ぎるのではないかなど，感じるのに必要だと思う。
「改善点」は，自分を振り返る面でも，集団SVがあったほうがいい。

3．Cさん

「保育実習で良かったこと，学んだこと」は，子どもを育てるっていうのは，トータルに長い目で見なければできないなと感じたこと。
「保育実習で気付いた自分の癖や長所・短所など」は，子どもが懐いてくれたので，身構えることなく，心を開こうと思えばできると思った。短所であり癖でもあるが，何か事件があるとパッと行ってしまうと思った。しばらく見守るべきだった。
「ケースを担当している中で役に立っていること」は，保育の時期の様子を，今まで見たことがなかったので，自分の中でイメージができるというのはすごく役立っていると感じる。
「あなたにとっての保育実習の意味」は，知識だけで，全部わかったつもりでいるのが，一番怖いなと思った。幼少期から知ることは大切なんじゃないかなと考えられるようになったのは，すごい意味があった。
「臨床心理士を目指す大学院生にとっての保育実習の意味」は，１を知って10を知るつもりでいると，臨床は怖い。心情面，考え方，認知と，感情というのは，子どもの頃から培っているものだから，中学生期，高校生期，成人期，どれに関わるとしても，小さい頃にどのような様子だったかなどを，イメージするためにも，保育実習は，必要だと思う。臨床心理士を目指す者としての，重要項目ではないかなと思う。
「改善点」は，全員やるようにしたらよいと思う。

4．Dさん

「保育実習の中で一番印象に残っていること」,「保育実習で良かったこと，学んだこと」は，表情，動作など，非言語で伝えるという体験をしたこと。言葉じゃないものも通じるんだなと印象に残っている。

「保育実習で苦労したこと，悩んだこと」は，この年代にはこういうことができて当たり前だとか，こういう障害が疑われるとか，友達関係だとか，頭に入っていなかったので，この子はまだ年齢がそこまでいってないんだなというのが，わかりにくかった。SV で話し合った。
「保育実習で気付いた自分の癖や長所・短所など」は，自分はお喋りなのと，刺激があると，パッと反応してしまうのを再認識した。いいところは，嫌でも休まず，どんなことがあっても行かなくてはならない気持ちが強いところ。長所であり，短所でもある。
「対象児との関係性から感じたこと」は，自分の好きという思いとか，思っている気持ちや行動は，離れていても何かで伝わるのかなと感じた。構って欲しいというのも感じるようになった。また子どもはエネルギーを自分にもくれる，幸せな気分になるのを感じた。
「ケースを担当している中で役に立っていること」は，非言語のコミュニケーション。また気持ちを聴くのは想像することとわかった。保育実習のことが浮かび，どんな思いでこの人は子どもを育ててきたのかな，保育所に預けていた時にはどんな感じだったのかな，どんな気持ちで仕事していたのかを想像できるようになった。
「あなたにとっての保育実習の意味」は，保育園は，親や家族以外の人との信頼関係ができる，最初のところなので，怖いと思った。純粋な気持ちがなかったら保育士ってできんのだなと思った。大人を一番子どもが見ているんじゃないかなと思う。
「臨床心理士を目指す大学院生にとっての保育実習の意味」は，成長する子を見るのは，人の最初の気持ちに触れるところかなと思う。いろいろな生き方をしている人と出会うことは，自分の体験として得られることが大きいと思う。
「改善点」は，保育士さんと話せるような時間がいると思うし，生の声が聞けると，すごくいいと思った。実習に行く目的や，どういう気持ちで行くかというのを統一したほうがいいと思う。遊びに行くのではないという心構え，視点が必要だと思う。

5．E さん

「保育実習の中で一番印象に残っていること」は，積木をどこまで高く積めるかを子どもを抱えながらやっていたこと。室内ではそれが一番自分らしく，しっくりきて，面白かった。天井までやり遂げた感もあったし，子どもの反応がすごく良かったのもある。
「保育実習で良かったこと，学んだこと」,「ケースを担当する中で役立っていること」は，今まで子どもと関わるのに，自分は目線を比較的合わせやすいと思ってきたが，保育園児は，思っていたより目線が低くて，新鮮だった。それを体験でき，感じられたことがよかった。目線を下げつくすということで，物事を丁寧に噛み砕くというのが意識でき，日常のことでも，大人相手のケースでも，細やかさ，丁寧さは必要なので，良かった。
「保育実習で苦労したこと，悩んだこと」は，実習で学ぶことと，行動観察をするという目的が，自分の中でしっくりこず苦労した。現場の雰囲気がしっくりこなくて，うまく乗りきれなかった。悩みは一度あった SV で話した。
「保育実習で気付いた自分の癖や長所・短所など」保育の場はしっくりこず楽しめなくて，意外な気付きだった。自分に対してネガティブな気付きが多くて，経験として良かった。
「あなたにとっての保育実習の意味」は，触れることができたという一言に尽きる。
「臨床心理士を目指す大学院生にとっての保育実習の意味」は，目線が遠いほど，子どもの目線に立てることは意味があると思った。幼児は年齢的に一番発達段階で遠いので，そこをしっかり見れる意味がすごくある。
心の発達などを見れるのも，すごく意味があると思う。
「改善点」は，時期が短かった。大学院側のスタンスと，現場のニーズにズレがあると思った。また１，２回しか実習生の話し合いの場がないのは，寂しかった。集団 SV みたいな会はもっと欲しい。

6．F さん

「保育実習の中で一番印象に残っていること」は，お母さんが送りに来たときに，「いつも子どもから話を聞いてます」と言われた時，無茶苦茶嬉しかった。
「保育実習で良かったこと，学んだこと」は，小さくても大人と変わらないとこがあるとわかった。子どもって何か思い通りになるってイメージがあったが，そんなことない。自分の思い通りになる存在じゃない。それが学んだこと。良かったことは，適当に流せるようになったこと。

「保育実習で苦労したこと，悩んだこと」は，初めは保育士さんの目が気になった。結構悩んだが，自然と解決し，相談も別にしていない。
「保育実習で気付いた自分の癖や長所・短所など」は，どうしても勝とうと思ってしまうのを，記録を書いていて気付いた。何で勝とうとしてるんだろう，負けてもいい，勝ち負けじゃなくて，楽しかったらいいということに気付いた。
「あなたにとっての保育実習の意味」は，非常に影響があった。子ども好きになったのも大きいし，何か子どもと関わる仕事がしたいなと思った。
「臨床心理士を目指す大学院生にとっての保育実習の意味」は，子どもが今何を思ってるんだろうとか，非言語とか考えるようになる。子どもと遊ぶのは，感受性や，子どもの目線になれる能力とか柔軟性とか，遊びもいると思う。そういうのが含まれてるのが，保育実習だと思う。ただ，保育実習も行くだけでなく，記録を書くことによって，振り返えり考えることが大事。
「改善点」は，定期的な SV が欲しかった。子どもと接したことがなくて，自信がないから皆と話し合ったり，先生の専門的な意見を聞きたかった。実習を今後もずっと続く体制にして欲しい。

7．G さん

「保育実習の中で一番印象に残っていること」は，対象児との関わり。噛み付きがあったから，しんどかった。今も考えると，ちょっとしんどい。嬉しくて印象に残ったことは，成長がわかったというか，対象児が今までできなかったことが急にできるようになった時，鼻水出した状態だったのが，自分でかめるようになったのが，すごく感動した。
「保育実習で良かったこと，学んだこと」は，良かったのは，エネルギーをいっぱいもらったこと。子どもといるだけで，すごく元気になる。案外，子どもと関わるのが下手くそで，想像だけでは，やっぱり駄目なんだなと学んだ。
「保育実習で苦労したこと，悩んだこと」は，保育士さんとの関わり。SV の皆や先生に話したことで，解決はしてないが整理がついた。
「保育実習で気付いた自分の癖や長所・短所など」は，案外お喋り下手だった。前は考えずにパッとやってたけど，それじゃ伝わらないことがいっぱいあって，ちょっと考えるようになった。悪いことしか未だに見つけられなくて，いいところはなかなか難しい。
「対象児との関係性から感じたこと」は，小さいが，一週間ごとに見ると，少しずつ成長してるのがわかった。印象的だったのは最後の回で，外遊びの終わりの時間に，いきなりバイバイって言われて，最後はスッと別れた。その時に，子どもは子どもなりに理解するんだなと思った。自分なりに整理をつけてるんだなと学んだ。
「あなたにとっての保育実習の意味」は，個人としてすごく面白かった。気付いたことがいっぱいあるし，すごく勉強になった。
「臨床心理士を目指す大学院生にとっての保育実習の意味」は，カウンセリングの原点はやっぱり子どもかなって思った。プレイセラピーが院生によくやられるのは，プレイセラピーがカウンセリングの機能をすごく体験しやすいものだからと，本に書いてあったが，関わりの原点だと思う。自分を知れるし，クライエントのことを想像しやすくなるし，乳幼児期がどうだったのかとか，遊びはどんなんだったのかとか，臨床の知識の上積みの中ですごく勉強になると思う。

8．H さん

「保育実習の中で一番印象に残っていること」は，実習の最後の挨拶。自分がそんなに感動するとは思ってなかったが，泣きそうなくらい，ありがとうございましたって感じで，すごいびっくりした。お別れだなと感じている子は，すごい真剣に話を聞いてくれて，思いって伝わるんだなと。小さい子って，小さい子の世界があって，わかるんだって，そこで初めて気付いたので，感極まった。
「保育実習で良かったこと，学んだこと」は，学んだことは，保育士さんの仕事の様子や関わり方。子どもたちを客観的に外から見せてもらえたり，対象児という個人だけを相手に関わるというのが保育士さんとは違い，入ってみないとわからないと感じた。
「保育実習で苦労したこと，悩んだこと」は，距離感や，関わり方。悩みは一緒に行っている実習生と話した。
「保育実習で気付いた自分の癖や長所・短所など」は，すごくじっくり見て，あの子今こんなこと考えているの

かなと，思い巡らすのは得意だけど，関わる時に，どうしていいかわからないというか，一緒に遊ぶことが苦手だなと感じた。

「ケースを担当している中で役に立っていること」は，常に思い出すわけではなくて，健康で情緒的にも安定している子がどんな遊びをしてたか，集団の中でどんなふうだったか，その中で自分がどういう関わりをしてたんだろうって，自分を客観的に見るのに，すごく思い出す。経験としてものさしになる。イメージがすごくしやすくなり，役に立った。

「あなたにとっての保育実習の意味」は，頭では，かわいいだけじゃ子どもは育てられないというのをわかってはいたが，身をもって体験した。ケースを持ったり，自分の子どもを産んだ場合に，すごく役立つんじゃないかと思う。

「臨床心理士を目指す大学院生にとっての保育実習の意味」は，イメージや考え方の練習，自分がどう関わるのかというのを知る場だと思う。実習中には気付かないことが，ケースを持ってみて，そういえば，あの時はと気付くことも多いから，自分の経験の幅を広げる経験と思う。発達っていうのも，教科書だけじゃわからないし，教科書通りにいかないことも多いし，同じ年齢でも全然速度が違ったり，発達だけじゃなく，個性とか育った環境とかも全然違うし，それを考える意味では深いなと。

9．I さん

「保育実習の中で一番印象に残っていること」は，皆人懐っこかった。「I さーん」って初めて会ったときから言ってくれて，基本的信頼感ってこういうものかと思った。素直な感情表現に，忘れていた子どもの頃の気持ちを思い出した。対象児が想像，妄想の世界で遊んでいて，初めは戸惑ったが，自分もその世界に入って，一緒に怪獣を倒すなどしたこと。こんなに自由に遊べるんだなって思った。

「保育実習で良かったこと，学んだこと」は，自分も癒された。子どもはあまり得意じゃなかったが，実際行って関わると楽しかった。苦手意識がなくなって良かった。

「保育実習で苦労したこと，悩んだこと」は，観察する人としてどう振る舞ったらいいか，保育士さんもどう扱ったらいいかという感じで，若干居心地が悪かった。保育士さんが躾をきちんとさせるとき，大事だと思いながら，見ているのがかわいそうで辛かった。SV では子どもとの関わり方が中心で，保育士さんとの関係などについては，個人的に実習生と話していた。

「保育実習で気付いた自分の癖や長所・短所など」は，結構遊びに真剣に入り込めることがわかった。記録がたまり，ずぼらな面に気付いた。保育士さんに打ち解けられず，社交性がないと感じた。

「対象児との関係性から感じたこと」は，自分は子どもがあまり好きではなかったし，子どもからもあまり好かれないだろうと思ったが，慕ってくれてすごくかわいいと感じた。でもお母さんが迎えに来ると，さっと行く姿に，お母さんって大きい存在だなと感じた。

「ケースを担当している中で役に立っていること」は，遊べるようになる練習になった。プレイセラピーで子どもが遊びをリードするのが，なぜよくなるのかと思ってたけど，実習中，子どもが自分を慰めるような遊びをして元気になるなど，その時々の気持ちを遊びに載せている様子を見て，私が働きかけなくても，子どもが自分で自分の気持ちを表現したり，消化したりできると信頼することができるようになった。

「あなたにとっての保育実習の意味」は，小さいときの寂しさ，わかってくれないことの悔しさ，悲しさを目の前の子どもに投影して，その子が笑ってくれると，昔の自分が慰められる気がした。

「臨床心理士を目指す大学院生にとっての保育実習の意味」は，実習は，気軽に次はこうしてみようと安心して試せる場だった。こうしたら，こういう反応が返ってきたとかを学べてからケースに入れてよかった。いきなりだったらどうしたらいいかわからなかった。

10．J さん

「保育実習の中で一番印象に残っていること」は，対象児がお昼寝から起きた時に，膝の上や近くで話したこと。一番近くで触れ合えた。

「保育実習で良かったこと，学んだこと」は，子どもたちの成長や，個人間差と個人内差があることがわかった。個人差の範囲に入るか，それを越えるのかといったことを学んだ。

「保育実習で苦労したこと，悩んだこと」は，噛みつきの時にどう止めたらいいかとか，おもちゃを返さないとか，どちらかを我慢させるとき，どうしたらいいか悩んだ。SV の時や，保育士さんに尋ねたりした。

「保育実習で気付いた自分の癖や長所・短所など」は，担当児や身近にいる子に我慢させてしまうところが癖かなと思った。子どもは好きだけど，イライラすることもあるとわかった。お母さん大変だなぁと思った。
「ケースを担当している中で役に立っていること」は，対象児とケースで担当している子がちょっと似ている。こういう感情かなと考える作業が，経験したことだと思える。子どもとただ遊ぶだけでは考えられない，その子が何を考えてるのか集中して考える経験ができた。
「あなたにとっての保育実習の意味」は，経験になった。対象児に深くかかわることで，その子が大事，愛おしいと思うようになった。こうやって，関係性はこっちも築いていくんだと，自分の変化も気付いた。また自分が，対象児のことを心配したり，お母さんのような気持ちになっていて，転移，逆転移に気付かせてくれる経験でもあった。
「臨床心理士を目指す大学院生にとっての保育実習の意味」は，発達，個性などを見たり，勉強になることがいっぱいある。子どもと遊べる，接することができるという経験は自信になる。実際子どもと接することで，子どもが苦手な人は本当にそうなのか，好きな人は好きだけじゃなく，自分が保育園に来てる意味，心理的な視点ってどういうことか，その子は今どんな気持ちかを考える意味があった。実習をする中で，心理職として現場で働くっていうイメージがつかめた。
「改善点」は，保育士さんと話し合いがもっとあればよい。担当の先生がいて，その先生と話せる時間があったらいいなと思った。SV の有無は大きい。あったほうがいい。

11. K さん

「保育実習の中で一番印象に残っていること」は，双子のお姉ちゃんの様子を見て，対象児が真似をして行動しているのを，観察していて発見できたこと。面白いと思った。
「保育実習で良かったこと，学んだこと」は，良かったことは，生の子どもたちと関われて，元気になれたこと。学んだことは，観察することによって，客観的に考えることができるようになったこと。観察，記録，SV で対象児の気持ちを考えるようになり，どうしたらいいかを考えるようになった。今この子はこういう気持ちかなと考えることができるような，もう一つの自分ができたのは大きい。
「保育実習で苦労したこと，悩んだこと」は，保育園，保育士さんの考える保育の場を壊さないように，様子を見ながら入ることに気を遣った。悩んだとかではないが考えた。SV で話したり，友人と話し合ったりした。
「保育実習で気付いた自分の癖や長所・短所など」は，自分の経験が活かされている，積み上げてきたものがあるという自信になった。また自分は気を遣い過ぎるかもしれない。苦手なものといいところがあったら，克服しようとするのではなく，いいところに行くのが自分の特性だと思った。
「ケースを担当している中で役に立っていること」は，相手の気持ちを考える，想像するということ。考えるという，実践の初期の芽生えをくれたと思う。
「あなたにとっての保育実習の意味」は，一点は，臨床心理士として，人を理解する勉強にすごくなったということ。もう一点は，自分が大学で保育をやって来て，それから離れた不安があったが，大丈夫だと自信を持てたということ。子どもが好きなので，子どもと接することで元気をもらえたということも大きい。
「臨床心理士を目指す大学院生にとっての保育実習の意味」は，面接をするに当たっても，初めは皆関わりに一生懸命。どう関わろう，何話そう，沈黙が怖いとかに一生懸命だったのが，経験を積み重ねることによって，どんな意味があるのかと考えるようになるのが，保育実習とすごく重なるところがあると思う。しかも健康的で，まだ自我が芽生えたての子どもだから，柔軟な存在。その子どもたちに保育園という場で，リスクが少なく関われるから，ロールプレイより実践的だと思う。経験がステップアップしていく点が似ていると思う。
「改善点」は，保育園側にも何かメリットがあったらいいと思う。

12. L さん

「保育実習の中で一番印象に残っていること」は，子どもとの関わりで，大好きという時と，急に噛み付いて来る時のギャップに驚いて印象的だった。好きって来てくれる時はすごく嬉しいが，怒って来る時は，イライラしてしまい，イライラしている自分にびっくりした。
「保育実習で良かったこと，学んだこと」は，子どもを見て，何歳くらいかわかるようになった。行く前は小さい子という括りしかなくて何歳か区別がつかなかったけど，今は何となくつくようになった。2 歳の自我が芽生える時期と，3 歳児との違いを見れて良かった。

「保育実習で苦労したこと，悩んだこと」は，行きたくないことがよくあった。部外者が入ることによって，その場を乱すことの恐怖感があったり，目の前で子どもが泣いた時どうしていいかわからなかったり，怒る時に怒れなかったりと，園に迷惑をかけているなと思った。子ども好きだと思ってたのに，子どもと接していてイライラする自分に出会ったり，一緒にいて疲れたこともあった。イライラするということ以外は，実習生同士でよく話した。
「保育実習で気付いた自分の癖や長所・短所など」は，イライラしてしまうところが短所。実習中ずっと笑顔でいる癖があると気付いた。頬の筋肉が毎回疲れて気付いた。
「ケースを担当している中で役に立っていること」は，素直に自分の気持ちを見るようになったかなと感じる。内面，揺れる自分というのをはっきり見ることができたのがよかった。客観的に自分を見ようとする練習になっている。
「あなたにとっての保育実習の意味」は，子どもの年齢がわかるようになった。子どもに触れて揺れる自分を見ることができるようになった。保育実習は，他の場面でも自分を客観的に見ようとするきっかけになった。
「臨床心理士を目指す大学院生にとっての保育実習の意味」は，いろいろな意味があるとは思うが，子どもは取り繕わない，まだ作り上げられていない時期なので，そういう隠されていない，人間関係の取り方というのを見ることができる。それを見て自分はどうなのかと考えるという意味があると思う。
「改善点」は，観察と関与というスタンスがもっとはっきり決まっていたらやりやすいと思う。

13. M さん

「保育実習の中で一番印象に残っていること」は，対象児が「M ちゃん」と名前を呼んでくれて，覚えていてくれたんだなと嬉しかった。
「保育実習で良かったこと，学んだこと」は，学んだことは，子どもの発達や成長を直に見れたこと。自分が遊べるか不安だったが，楽しいと感じることに気付けて良かった。
「保育実習で気付いた自分の癖や長所・短所など」は，保育士さんを待っている時に子どもにポンと膝を叩かれて，自分も叩き返したことがあり，SV の時に何気なく発表したら同じ実習生に，「当たり前みたいにしているが，こういうのが遊びに繋がるんですね」と言われたことがあって，それは自分では気付かなかった。
「ケースを担当している中で役に立っていること」は，保育実習を思い出すと，何かをしてあげようじゃなくて，その子に寄り沿っていこう，付いていこうというのが強かったので，それが繋がるのかなと思った。気負うのではなく，遊びに付いていくのが大切だと思って，ケースに臨んだ。すると自分も楽しくなれた。保育実習のことを思い出したことが，とても大きかった。
「あなたにとっての保育実習の意味」は，対象児を見たり，接するなかで，こんなに小さいうちから子どもは，悩んだり迷ったりいろいろ考えて，折り合いをつけたりしてるんだと思った。それまで５，６歳までしか接したことがなかったので，驚いた。また２歳児は地方の方言を使っていても気にしなかったが，３歳児さんだと方言に何だろうという顔をしていて，その１歳の違いも面白かった。
「臨床心理士を目指す大学院生にとっての保育実習の意味」は，保育実習では，先入観を持たず遊びこんでいけた。先入観を持つと見えてこないものがあるのかなと思う。自然と，何があってもこの人は付いてきてくれると感じて初めて，安心して遊んだり，表現したりすることができるのではないかと思う。関係性を築くには，保育実習で経験した，対象児に先入観なしに，寄り沿っていこうとする思いが必要だと思う。
「改善点」は，１人と関わっていくことは，漠然と見るのではなく，すごくいい経験になるので，それを続けていってもらえたらと思う。

14. N さん

「保育実習の中で一番印象に残っていること」は，他の子に話しかけられることが多く，対象児とそんなに関わっていなかったが，名前も覚えて呼んでくれて，関わろうとしてきてくれ，関わりができるようになったこと。子どもはよく見ていてくれるんだなと思った。
「保育実習で良かったこと，学んだこと」は，観察という新しい視点を持てたことが良かった。
「保育実習で苦労したこと，悩んだこと」は，子どもと関わる中で保育士さんの目が気になった。実習生に相談して，同じ思いをしている子もいて，話すことで解消し，向き合っていこうと思った。
「保育実習で気付いた自分の癖や長所・短所など」は，自分は，考えるよりも動くのが短所かなと思った。長所

は自分ではわかりません。
「ケースを担当している中で役に立っていること」は，言語もプレイもしているが，待つことが苦ではなく，一緒に待つことができる。プレイでは，一緒に自然と遊べるのに役立っているかなと思う。
「あなたにとっての保育実習の意味」は，今回の実習は，視点を自分で選べる，主体的に自分で意味を見つけていくものだったので，すごく困ってしまった。しかし，何を見たいのかはっきりしていたら，じっくりできる場だったので，自分の成長の場として，すごく役立ち，深いと感じた。
「臨床心理士を目指す大学院生にとっての保育実習の意味」は，ケースを担当するに当たって，健康な子と関わる意味があると思う。そして，考える，考えを深める，心を動かす場だと思う。

15. O さん
「保育実習の中で一番印象に残っていること」は，滑り台で１人の男の子が上から靴を落としてきたり，前の子を蹴ったりするので止めようとしたが，「うっさいババア」と言われ，ガーンとなった。さらに，その後車の取り合いになったが，何もできなくて，ガーンガーンとなり，印象に残っている。
「保育実習で良かったこと，学んだこと」は，その歳の子どもたちがどういうふうに遊んでいるか見れたことが良かった。２歳児さんは，まだ大人に遊んで欲しいようで声を掛けてくるが，３歳児さんは，友達同士で遊び，その遊びの中に実習生を加えたり，上手に遊んでいた。その様子を見ることができて良かった。
「保育実習で苦労したこと，悩んだこと」は，初めの頃は子どもたちが集まって来ると，どうしていいのかわからなかった。保育士さんの目がすごく気になった。園のルールがわからず，保育士さんに手間を掛けているのではないか，どういうふうに声かけをしたらいいのかと悩んだ。ゼミの時や，同じ時期に行っている実習生と話し，情報交換もすることができた。
「保育実習で気付いた自分の癖や長所・短所など」は，割りと気長に待てる。喧嘩をしていても子どもらで何とかできるかなと見ていられるのが，長所でもあり，短所でもあるかなと思う。危ない時に止めに出るのが遅れるのが良くないところだと思った。
「ケースを担当している中で役に立っていること」「あなたにとっての保育実習の意味」は，子どもの世界，考えていること，子ども同士の関係がわかって面白かった。想像していたよりも，子どもはいろいろ考えているということがわかった。また自分の長所や短所も改めて感じることができた体験だった。
「臨床心理士を目指す大学院生にとっての保育実習の意味」は，子どもの発達を知ることができる。記録をすることで，自分がどういうところに反応するか，自分がどのように感じるかということを振り返ることができた。指導を受けることで，より自分の癖や特徴を知ることができるのではないかと思う。
「改善点」は，集団 SV の有無は大きな違いがあると思う。SV を受け，もっとこの体験を深めたかった。

16. P さん
「保育実習の中で一番印象に残っていること」は，お母さんと離れてすごく泣いている子に，後ろ向きで抱っこした。そのほうが安心できるのかなと思ってした時に，泣き止んでくれた。自分で考えながら保育をして，子育てってこんな感じなのかなと印象的だった。
「保育実習で苦労したこと，悩んだこと」は，慣れていなくて，壊れ物に触れるみたいな関わり方だったので，子どもも私の不安な顔を見て泣き出したりして，ごめんという思いと，どこが悪いんだろうという不安な気持ちだった。実習生に悩みは相談した。
「保育実習で気付いた自分の癖や長所・短所など」は，自分は，性格的にはすごく神経質なんだと思った。普段とは違って，子どもが相手だとすごく神経質になった。子どもは伝わりやすいので，完璧じゃなくてもまぁいいかという感じになれたらいいと気付いて，それから楽になった。また保育士さんに遠慮してしまいがちだった。
「あなたにとっての保育実習の意味」は，小さい子と接することのできる初めての機会だったので，私の場合は生で見て，接してから勉強のために，本を読むきっかけになったし，グループで SV を受ける時に，そういう関わり方があったんだとか，ここはもうちょっと発達について勉強したほうがいいなと，学ぶきっかけになった。
「臨床心理士を目指す大学院生にとっての保育実習の意味」は，知識だけだとわかったつもりになるし，実際に関わることで，関わるしんどさや，ずっと一緒にいるお母さんの気持ちもわかる。そういうのを知っておいたら，クライエントさんに対して一瞬責めたくなったりとかしても，止められたり，ちょっと理解できるようになったかなと思う。

Ⅳ．考察

質問項目に沿って，個人の面接内容を記述化しそれを簡略にまとめたものを分析対象とし，回答内容の類似性によって，いくつかのカテゴリーに分類した。

１．保育実習の肯定的な側面

保育実習の肯定的な側面として，質問事項の「保育実習で良かったこと，学んだこと」,「ケースを担当する中で役立っていること」についての項目の回答を分析した。いずれも，＜幼児理解＞＜自己省察＞＜情動的体験＞＜臨床的視点＞＜その他＞の５つのカテゴリーに分かれた。

２項目とも，＜幼児理解＞に関するカテゴリーに含まれる回答が多かった。「保育実習で良かったこと，学んだこと」では，『子どもの成長や発達を知ったこと』や，『発達障害や問題のある子の観察が出来た』ことなどの（発達・理解）のサブカテゴリーに含まれる内容（15）や，『子どもの気持ちを考える』などの（心情・感情）のサブカテゴリーに含まれる内容（５）であった。「ケースを担当する中で役立っていること」では，『遊び方が役立っている』や『遊べるようになる練習になった』など，（遊び）に関するサブカテゴリーに含まれる内容（８）であった。次いで，子どもの姿などを自分のなかで『イメージができる』など，（心情・感情）のサブカテゴリーに含まれる内容（６）であった。

次いで多く語られていたカテゴリーでは，いずれも＜自己省察＞に関するものだった。実習を思い出すことで自分がどんなかかわりをしていたのだろうと『自分を客観的に見る』事や，『適当な余裕が出来た』,『体験的な知になった』などであった。＜情動的体験＞では，「保育実習で良かったこと，学んだこと」の項目では，『元気になる』『楽しかった』という思いが見られ，「ケースを担当する中で役立っていること」の項目では，『感情を考える練習』『相手の気持ちを考える』などが見られていた。＜臨床的な視点＞からは，どちらも『情動調律』や『非言語のコミュニケーション』を学んだという内容が見られていた。

現在，大学院生たちが担当しているケースは，ほとんどの人がプレイセラピーであることからも，＜幼児理解＞の（遊び）に関することがケースに役立っていると考えられた。

東山（1995）は，「遊びは，もっとも自然な自己表現であり，大人の言葉に代わるものとして伝えたいことがイメージとして象徴的に表現されるもの」とし，「自発的な象徴的表現を通して，深く理解してもらえたと感じるとき，子どもの不安が消え，外界と内界の統合へと向かうことができるようになる」と述べており，幼児保育とカウンセリングの共通点を示唆している。初めてのケースを担当する中で，実習生はカウンセリングの原点である「自己表現」の「遊び」を子どもたちと一緒に体験し，味わうことで気づきを得たと考えられる。

２．保育実習で困ったことや改善点

「保育実習で苦労したこと，悩んだこと」の項目と「改善点」の項目を分析した。「保育実習で苦労したことや悩んだこと」では，＜幼児理解＞＜自己省察＞＜情動的体験＞＜臨床的視点＞＜その他＞の５つのカテゴリーの内，＜幼児理解＞に関する内容（21）が多く見られていた。（困った行動への対応）（10）のサブカテゴリーに含まれていた内容は，『要求や行動の受け入れ限度に困った』や，『噛付きの対応』に悩んだりしていた。また『対象児以外の子どもとのかかわり方』や『子どもとの接し方が分からない』など（関係の取り方）（10）のサブカテゴリーなどであった。次いで，＜自己省察＞（12）の（保育士との関係）（６）に関する内容が多く見られた。『保育士さんの目が気になった』（３）などであった。次いで，＜情動的体験＞（11）の内容であった。『居心地が悪かった』『イライラする自分に出会った』などであった。

そのような困ったことや悩みは，小集団でのディスカッションまたはSVや，実習生同士で話し合い解決していた。しかし，定期的な小集団でのディスカッションを受けられなかった実習生もいたため，「改善点」の回答では，『SVやディスカッションの機会が定期的にあればいい』という回答が（７）最も多く見られていた。また，『保育士さんとの話し合い』（３）がもっとあればいいとの意見や，『保育園にとってもメリットになること』があるようにという意見も見られた。

今回，小集団での定期的なディスカッションは約半数の者しか受けられなかった。他の人は２～３回のディスカッションになっていた。定期的なディスカッションの中では，実習生の記録の書き方の変容や，討議内容の変容などが見られていた。例えば，幼児の行動や気持ちへの気づきが増え，自らの感情へと視点が向くようになったなどであった。また，幼児理解の深まりや，グループメンバー間での心理的支えの増加なども見られていた。

実習中に生じる不安や悩みはグループの中で，抱えられ体験をしていたと考えられた。その機会が少なかった人にとっては，不安が解消されにくく，経験の深まりが得られなかったと考えられる。

3．個人にとっての保育実習の意味

「保育実習で気付いた自分の癖や長所・短所」と「あなたにとっての保育実習の意味」の質問項目の回答を分析した。「保育実習で気付いた自分の癖や長所・短所」のカテゴリーは＜自己省察＞＜幼児との関係＞＜その他＞の３であり，＜自己省察＞のカテゴリーに含まれる回答（25）が最も多かった。『割と気長に待てる』『気持ちが強い』などのどちらかと言えば（肯定的な思い）（10）や，『合わせることが出来にくい』『悪いことしか見つけられない』などの，（否定的な思い）（９）が見られていた。また，『何かあるとぱっと反応してしまう』癖や『お喋りなのを再認識した』などの（特性）（６）であった。次いで，＜幼児との関係＞のカテゴリーに当てはまる内容（16）となっていた。（姿勢や態度），（視線），（泣く）などのサブカテゴリーが見られ，内容では，『イライラすることもある』，『寂しそうにしている子に注意が向く』，『泣かれるのに弱い』，などであった。

「あなたにとっての保育実習の意味」の項目でのカテゴリーは，＜幼児理解＞＜自己省察＞＜情動的体験＞＜臨床的視点＞＜その他＞の５であった。最も多かったのは＜自己省察＞（11）で，（客観的な視点），（成長・自信），（考える・学ぶ）のサブカテゴリーが見られ，内容では，『自分を客観的に見るきっかけ』，『自分の成長の場』，『学ぶきっかけ』などが見られた。次いで，＜幼児理解＞（９）のカテゴリーに含まれるものであった。（発達・理解），（子どもへの感情）のサブカテゴリーに分かれ，その内容は『発達を知る』，『子どもへの愛おしさを感じた』などであった。次いで＜情動的体験＞（７）では，『大人とは違う面白さを感じた』，『怖いと思った』などであった。

保育実習では見知らぬ実習生に対して幼児は泣いて不安を示したり，悲喜交々の感情を向けたりすることがある。そのような幼児たちに接して，実習生の心も動かされ感受性を高め，また自己を見つめる機会ともなった。肯定・否定の感情と共に自己を再確認する有意義な体験であったことを示唆している。

4．大学院生にとっての保育実習の意味

「臨床心理士を目指す大学院生にとっての保育実習の意味」を聞いたものでは，表１のように，＜臨床的視点＞のカテゴリー（20）が最も多く回答されていた。その中でも（実践的経験）のサブカテゴリーに含まれるものが（10）であった。『教科書だけでは得られない経験』『学べてからケースでよかった』『ロールプレーより実践的』などの回答が見られた。また，（クライエント理解）（５）では，『クライエントのことを想像しやすくなる』『ケースの子も実習中の子も同じと思える』などであった。次いで，＜幼児理解＞のカテゴリーが（15）であり，（発達・理解）（８）では，『子どもの発達を知る』『子どもの目線に立てる』などの回答であった。（心情・感情）（５）では，『子どもを感じる』『子どもの気持ちを考える』などであった。次いで，＜自己省察＞のカテゴリーが（10）であり，『考えを深める』『自分の関わり方を知る』などの回答であった。＜情動的体験＞（６）では，『かかわるしんどさ』『自信になる』などであった。＜その他＞（５）には，『親の気持の理解』や『心理職として働くイメージをつかんだ』などであった。

保育実習は，大学院生にとって臨床心理学を学ぶ上での基礎的な実践の場であり，子どもを知るという場，心を動かし感受性を高める場でもあった。また，親の気持ちを理解できるという意味合いもあったようだ。

デューイ（1975）は，「経験は，非常につまらぬ経験でも，いくらかの理論（すなわち知的内容）を生み出し，支えることが出来るが，経験から離れた理論は，理論としてでさえも明確に把握することが出来ないのである」と実践から得るものの重要性を指摘している。臨床心理学という，一人ひとりとの関係性を大切にし，理論と実践を二本柱とする分野では，この言葉は非常に大きなことを示唆している。実習生は，保育実習という経験を通して，経験をベースとした実践的な理論を手にしたと考えられる。

5．個々の体験

16人の大学院生にとって，保育実習はそれぞれに意義のある体験だったと考えられた。

インタビューをした時の様子を所見に数行ずつ記載してある（本論文では省略）が，特徴的なことを個別に見ると，実習が積極的なプラスの体験になっていた人と考えられるのは，『子どもとかかわる仕事がしたい』と思ったというＦさんや，『久しぶりに対象児を思い出して幸せな気持ちになった』というＭさん，『大丈夫だと自信が持てた』というＫさんなど８名だった。

表１　大学院生にとっての保育実習の意味

カテゴリー	サブカテゴリー	内　容
＜臨床的視点＞（20）	（実践的経験）（10）	学べてからケースの良さ 安心して試せる場 自分の経験の幅を広げる 教科書だけでは得られない経験 臨床の知識の上積み プレイセラピー実践に必要 ロールプレイより実践的 体験的な知 柔軟性や感受性が含まれている実習 経験がステップアップ
	（クライエント理解）（５）	ケースの子も実習中の子も同じと思える 面接と実習の子と重なる クライエントのことを想像しやすくなる クライエントさん理解 イメージや考え方の練習
	（関係性への気づき）（３）	関わりの原点 純粋な人間関係のとり方を見る 関係性を築くのは寄り添うこと
	（その他）（２）	カウンセリングの原点は子ども 心理的視点とは何かと考える
＜幼児理解＞（15）	（発達理解）（８）	子どもの発達を知る（２） スクリーニング 心の発達が見える 健康な子どもとのかかわり 子どもと接するための勉強 子どもの目線に立てる（２）
	（心情理解）（４）	幼児の心情・認知・感情等を知る 子どもの思いを考える 子どもの状態を感じる 子どもの気持ちを考える
	（遊び）（３）	子どもと遊ぶ（２） 先入観を持たずに遊ぶ
＜自己省察＞（10）		自分の足りないものを考える 自分を知る 自分の動き方を考える 考えを深める（２） 自信になる 記録を書くことで自分を振り返る（２） 自分の関わり方を知る 自分の癖や特徴を知る
＜情動的体験＞（５）		心を通わせる 人の最初の気持ちに触れる 心を動かす場 関わるしんどさがわかる 臨床は怖い
＜その他＞（５）		対援助職に必要 親の気持ちの理解（２） 保育園に来る意味を考える 心理職として働くイメージをつかんだ

また，小さい頃の自分を思い出し，『昔の自分が慰められる気がした』というＩさん，お母さんのような気持ちになり，『転移・逆転移に気付く体験だった』というＪさんにとっては印象的な実習であったようだ。『間をおかずテンポよく話した』Ｂさんや Ｎさん，Ｏさんは穏やかに実習を振り返っていた。

逆に，振り替ってみても『自分に対してネガティブな気付きの多い体験』だったというＥさんや『今も考えるとちょっとしんどい』というＧさん。『子どもと接しているとイライラする自分に出会った』というＬさんたち３名にとってはこの体験が決してプラスの体験だったとも言えない。

乳幼児に関わる経験は，子ども時代の自分に出会う経験でもある。実習生は乳幼児に同一化したり，養育者に同一化したりしながら内省し，逆転移理解をしている。その経験が有効に作用した人もいるが，そこまで至らなかった人や逆転移理解が進まなかった人も見られる。またそれは，個々の体験を振り返って深め，かかえる場としてのグループディスカッションのあり方が関係しているとも考えられた。

６．今後の課題

本研究では，臨床心理士を目指す大学院生の，保育実習の経験について話を聴くことでその意義を検討した。保育実習は，参加した大学院生にとって，幼児理解を始め，臨床的視点の学びなど意義のある経験になっていたと考えられる。特に，幼児理解や子どもと関わることについての実践的経験となったことが大きいようだった。しかし，対象者が16名と少なかったため，あくまで探索的なものである。今後，より多くの人を対象に検討を進める必要がある。

また，保育実習の期間が５ヶ月間であり，実習生は保育園に馴染んだ頃に終了になってしまう。保育実習の期間や実習方法を再考することが必要である。そして，グループディスカッションを初めとする話し合い，振り返りの機会をどのように充実させ，実習生の体験を深めていくかが課題である。

本論文は，両木（2008）の修士論文を，中津が指導しまとめ直したものである。

謝辞

保育実習の申し入れに快く応じてくださり，実習生と子どもたちの関係調整や指導助言等，ご協力，ご尽力いただいたＡ法人保育園の園長先生や職員の皆様方に感謝申し上げます。また，保育実習に参加し，その体験を語っていただいた16名の実習生に心より感謝申し上げます。

引用・参考文献

Dewy. J 1916 Democracy and Education, An Introduction to the Pilosophy of Education.（松原安男訳　民主主義と教育　岩波文庫）.

東山弘子　1995　幼児保育と遊び（氏原寛・東山紘久編　幼児保育とカウンセリングマインド　ミネルヴァ書房，63－77）.

神田橋條治　2006　精神療法面接のコツ　岩崎学術出版社.

衣笠隆幸　1994　タビストック・クリニックにおける乳幼児観察の方法と経験（小此木啓吾・小嶋謙四郎・渡辺久子編　乳幼児精神医学の方法論　岩崎学術出版社，27－39）.

中津郁子　二宮麻利江　山下一夫　2009　初心者カウンセラーによる乳幼児観察のありかたーカウンセラーとしての資質を育むためにー　鳴門教育大学研究紀要，24.

両木理恵　2008　臨床心理士を目指す大学院生における保育実習の意義についての研究　鳴門教育大学大学院修士論文.

鈴木龍　1994　乳幼児観察で見えるものは何か？（小此木啓吾・小嶋謙四郎・渡辺久子編　乳幼児精神医学の方法論　岩崎学術出版社，44 - 51）.

高塚人志　2007　いのちを慈しむヒューマンコミュニケーション授業　大修館書店.

徳島大学大学院ヘルスバイオ研究部医療教育開発センター　2007　医療系学生の保育所実習による子育て支援～医療職（医師，看護師）を目指す学生の人間力を高める～初年度取組成果報告書Ⅱ.

友定啓子　2002　子どもの内的世界の把握（藤崎眞知子・本郷一夫・金田利子・無藤隆シリーズ／臨床発達心理学⑤　育児・保育現場での発達とその支援　ミネルヴァ書房，34－36）.

山口義枝　1999　乳幼児観察の経験―身体交流の面から―　日本心理臨床会，17（1）34－42.
渡辺久子　1994　乳幼児観察（小此木啓吾・小嶋謙四郎・渡辺久子編　乳幼児精神医学の方法論　岩崎学術出版社，53－66）.
付記　本研究は，平成20年度の独立行政法人日本学術振興会科学研究費補助金の交付を受けて行ったものである。

Significance of Training at Day Nursery for Graduate Students Learning Clinical Psychology

NAKATSU Ikuko* and RYOUKI Rie**

(Key words : training at day nursery, clinical viewpoints, infant comprehension, sensitivity)

Under the current curriculum at our school, the graduate students, learning clinical psychology, practice training on childcare at day nursery for about 5 months. The present study was undertaken to investigate the significance and efficacy of training at day nursery through an interview of 16 trainees.

The records of interview for individual trainees were summarized and analyzed. The responses from trainees were checked for similarities and classified into several categories.

The trainees tended to answer both "advantages" and "difficulties experienced" of the day nursery training within the framework of the category "infant comprehension." Advantages pointed out by the trainees were "having an opportunity of learning infant's development" and "learning insight into infant's emotions." Difficulties experienced by the trainees pertained to how to deal with problematic behaviors of infants and how to contact infants. To the question about "significance of day nursery training to you as an individual person," the answers of the trainees were often related to the category "self–reflection." The training at day nursery provided the trainees an opportunity of acquiring objective viewpoints and facilitating growth, confidence and learning. When asked about "significance of day nursery training for graduate students," the trainees tended to answer the significance of the training as an opportunity for practical experience and facilitation of infant comprehension. The responses of individual trainees suggest that the trainees had the experience of being shaken during the training, including being impressed by their relationship to infants, elevating their sensitivity and increasing their understanding of children and themselves.

*Training and Practice in Clinical Psychology, Naruto University of Education
**Otai Mental Clinic